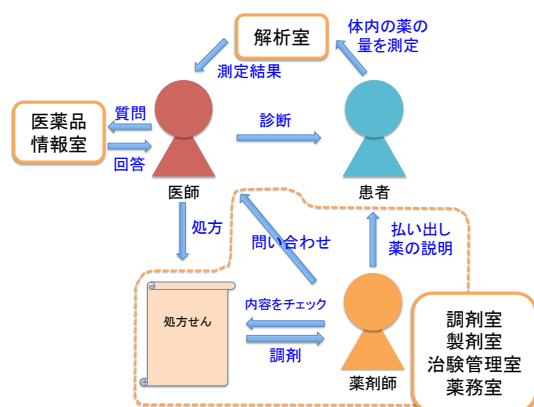


病院の中での薬剤師の働き



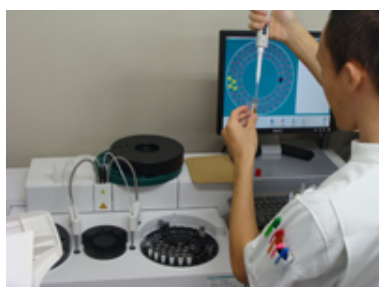
患者さんが病院に来ると医師が診察を行い、薬を処方します。薬剤師は医師の出した処方せんの内容をチェックし、調剤を行います。できあがった薬を患者さんに払い出すときに、薬の説明を行います。他にも情報の提供や患者さんの血液の解析などを行っています。

・調剤室



医師の処方せんの内容について、間違いが無いかを確認し、問題なければ処方せん通りに薬を払い出します。内用薬（錠剤、カプセル剤、散剤など）、外用薬（貼り薬、軟膏、点眼薬など）、注射薬など様々な薬の調剤を行っています。

・薬効薬物動態解析室



医薬品の効果がわかりにくい薬や、危険な副作用（有害事象）が起こりやすい薬について、体の中の薬物の量を測定することで、効き目や副作用を予測し、有効かつ安全な治療のお手伝いをします。

・化学療法管理室



化学療法薬（抗がん剤）はがん細胞を攻撃しますが、正常な細胞にもダメージを与えるので、適切な投与計画の管理が必要です。ここではそのような化学療法薬の管理を行っています。

・製剤室



病院で使う注射薬を無菌的に混合したり、市販されていない特殊な薬を院内で作成したりすることで、様々な治療方法に対応できるようにしています。

・病棟業務



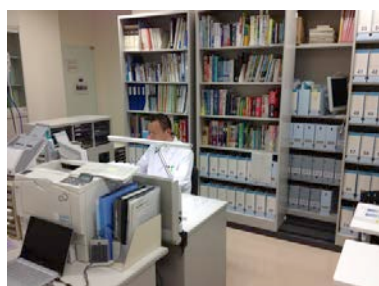
これまでの薬剤師は薬剤部で薬を払い出す役割が主でした。しかし、最近では病棟で患者さんの状態や検査の結果を見ながら、適切な薬を医師に提案したり、医師・看護師などからの薬に関する疑問に答えたりして、欠かすことのできない存在になっています。

・薬務室



常に安定して薬が供給されるように薬を注文したり、受け取ったりする部署です。
電子カルテでオーダーできる医薬品を設定するマスタの管理を行っています。

・医薬品情報室



薬に関する情報がまとめられており、医師やその他の医療スタッフからの様々な質問の窓口となっています。さまざまな質問に答えるために書籍など数多くの資料が集まっています。

・治験薬等管理室



『治験』とは薬が販売される前に一部の患者さんを対象として行う臨床試験です。患者さんの安全を確保するため、しっかりした計画に基づいて行われており、厳密な薬の管理が求められています。

・チーム医療（例：栄養サポートチーム, Nutrition Support Team (NST))



いろいろな職種のひとが専門知識を持ち寄って協力して治療を行うことをチーム医療と言います。
例えば、栄養サポートチーム（NST）には医師、薬剤師、看護師、栄養士などが参加し、それぞれの専門性を活かして患者さんの栄養管理を行います。